

第7章 生物多様性のために私たちができること

生物多様性のために私たちができることはたくさんありますが、本計画で重視している「生物多様性を回復させる」、「日々の行動で世の中の流れを変える」という視点で整理しました。まずは、ここで紹介することを意識して取り組んでみましょう。

市民

目指すこと	できること	得られる結果
生物多様性を回復させる	保全活動に関わる <ul style="list-style-type: none"> 身近な自然の調査・保全活動に参加する 各種の講座・イベント等に参加する 	<ul style="list-style-type: none"> 貴重な自然が将来にわたり守られる
	緑化に取り組む <ul style="list-style-type: none"> 庭やベランダなどで植物を育てる 生物多様性に配慮した緑化に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 生きもののエサ場・すみかが増え、生態系が豊かになる 地球温暖化対策につながる
日々の行動で世の中の流れを変える	買い物にこだわる <ul style="list-style-type: none"> 地元のをできるだけ選んで買う 環境や社会に配慮したものを選んで買う マイバックを持参する 	<ul style="list-style-type: none"> 環境等に配慮した商品が売れると企業がさらに商品を取扱うようになり、産地の環境等への配慮が進む 資源の節約につながる



市民団体

目指すこと	できること	得られる結果
生物多様性を回復させる	活動を継続・発展させる <ul style="list-style-type: none"> ・新たな構成員を確保する ・活動への参加者層を拡大する ・多様な主体と連携する ・活動資金を確保する 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の多様な主体との輪が広がり、生物多様性保全の取り組みが維持され、貴重な自然が将来にわたり守られる
日々の行動で世の中の流れを変える	多様な主体と協働する <ul style="list-style-type: none"> ・市民、事業者、教育機関、行政等と連携し、生物多様性の機運を醸成する 成果や課題を積極的に発信する <ul style="list-style-type: none"> ・SNSや発表の機会を有効活用する 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の理解が深まり、取り組みの輪が広がることで、生物多様性の恵みを将来にわたり、受け続けることができる



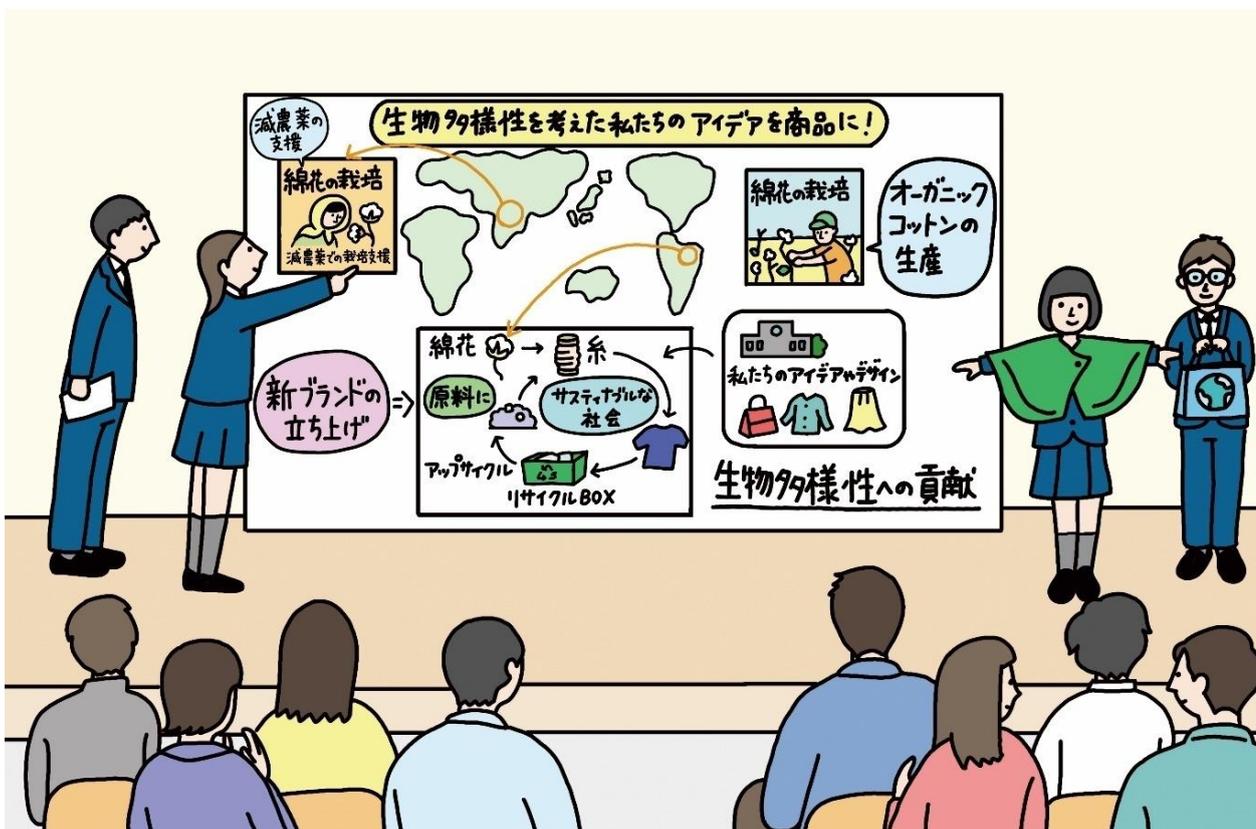
事業者

目指すこと	できること	得られる結果
生物多様性を回復させる	身近な自然の調査・保全活動に関わる <ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献や社員研修の一環として、身近な自然の調査・保全活動に関わる ・資金面から地域の保全活動を支援する 	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な自然が将来にわたり守られる
	緑化に取り組む <ul style="list-style-type: none"> ・敷地内の緑を増やす ・生物多様性に配慮した緑化に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・生きもののエサ場・すみかが増え、生態系が豊かになる ・地球温暖化対策につながる
日々の行動で世の中の流れを変える	本来業務に生物多様性の配慮を取り入れる <ul style="list-style-type: none"> ・環境や社会に配慮した商品の取扱いや使用を増やす ・原料調達、製造、販売等の一連の企業活動の流れを生物多様性に配慮したものとする 	<ul style="list-style-type: none"> ・原料等の調達元の自然環境が将来にわたり守られる ・生物多様性の恵みを将来にわたり、受け続けることができる



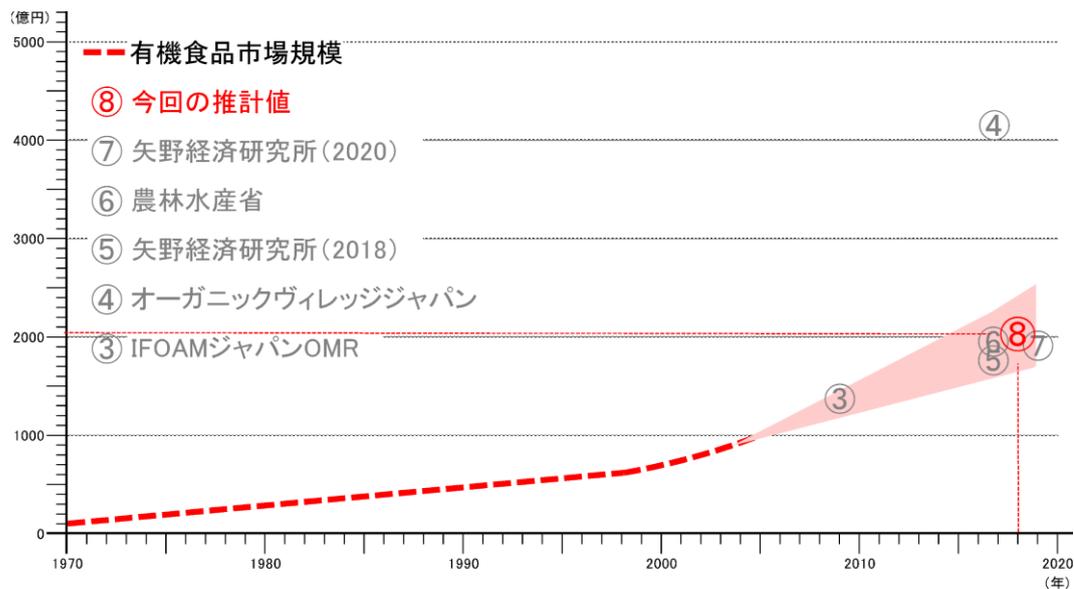
教育機関

目指すこと	できること	得られる結果
生物多様性を回復させる	身近な自然の調査・保全活動に関わる ・授業や課外活動の一環として地域の調査・保全活動に関わる	・貴重な自然が将来にわたり守られる
	緑化に取り組む ・敷地内の緑を増やす ・生物多様性に配慮した緑化に取り組む	・生きもののエサ場・すみかが増え、生態系が豊かになる ・地球温暖化対策につながる
日々の行動で世の中の流れを変える	生物多様性について学ぶ機会をつくる ・生物多様性と自分たちの生活のつながりについて授業で取り上げる	・子どもから大人まで、生物多様性に配慮した行動をとる人が増える ・生物多様性の恵みを将来にわたり、受け継ぐことができる



コラム 有機製品の拡大

近年、日本国内では、化学肥料や農薬の使用を可能な限り低減し、生物多様性や健康に配慮した農産物などを使用した有機製品の市場が拡大しています（下図）。



有機食品の市場規模の推移（推計）

出典：2020年2月、秋田県立大 酒井徹 資料より抜粋

名古屋市内でも、店舗での有機食品・有機JAS認定マーク製品の取扱い、オーガニックファーマーズの活動、小学校給食での有機農産物の使用など取り組みが拡大しています。その他、オーガニックコットンや化粧品など有機食品以外の製品の店舗での取扱いも見られます。

有機農業の定義（有機農業の推進に関する法律（平成18年法律第112号）における定義）

化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業

有機農産物の生産方法の基準（ポイント）

- ・堆肥等による土作りを行い、播種・植付け前2年以上及び栽培中に（多年生作物の場合は収穫前3年以上）原則として化学的肥料及び農薬を使用しないこと
- ・遺伝子組換え種苗を使用しないこと

農林水産省では、みどりの食料システム戦略（2021年5月策定）の中で、耕地面積に占める有機農業の取り組み面積の割合について、現状0.5%（2.35万ha）を2050年までに25%（100万ha）にするという目標を設定しており、今後も有機農業は拡大していくと予測されます。

一方で、農業分野においては、従事者の高齢化や担い手不足が進行しており、害虫の被害や雑草が発生しやすく、土壌づくりにも手間やコストのかかる有機農業の拡大には課題も多くあります。

私たち消費者が、生物多様性保全や安全・安心等メリットの多い有機製品の価値に気づき、自ら積極的な消費行動（エシカル消費）をすることは、生産者の応援につながり、ひいては生物多様性の保全に大きな力となります。

コラム 市内で都市養蜂

名古屋の都心で養蜂というと、どこで？なぜ？と思われる方もいるのではないのでしょうか？

ミツバチは花の蜜を集めて、その蜜を女王バチや幼虫が越冬するための餌にしますが、都市には蜜を生み出す花や木がある公園があり、農薬による影響も少ないため、意外にも養蜂に適した環境となっています。

名古屋市内ではビルの屋上などで、2010年頃から都市養蜂が行われています（右図）。各団体は互いにミツバチの融通を行うなど、協力・連携し活動しています。

また、養蜂は、花粉媒介の観点から生物多様性や農業にも大きく貢献しています。ニンジン、キャベツ、リンゴ、サクランボなどの野菜や果物の受粉には、ミツバチなどの昆虫の存在が欠かせません。

さらに、都市養蜂は、まちづくりにも一役買っています。活動されているグループの方からは「ミツバチを育てることで町がきれいになった」、「ミツバチを通じて人と自然を考えるきっかけとなった」などの声もあり、人の意識を変えるきっかけにもなっています。単にハチミツを収穫するだけではなく、まちの魅力向上、生活環境の向上、環境教育の場の提供などにつながっており、取り組みに関わる人の輪も広がっています。

名古屋産のハチミツは、飲食店等で提供されており、地域の植物の特性や環境の違いで味が違います。こうした商品を選択・消費することで地域の活動を応援することにもつながります。

名古屋の都市養蜂グループ



提供 マルハチ・プロジェクト松良宗夫



マルハチ・プロジェクト（中区）

中区丸の内を中心に活動する有志グループ
<https://www.facebook.com/maruhachi>



名古屋学院大学（熱田区）

名古屋学院大学
<https://www.ngu.jp/and-n/region-commerce/honey-bee/>



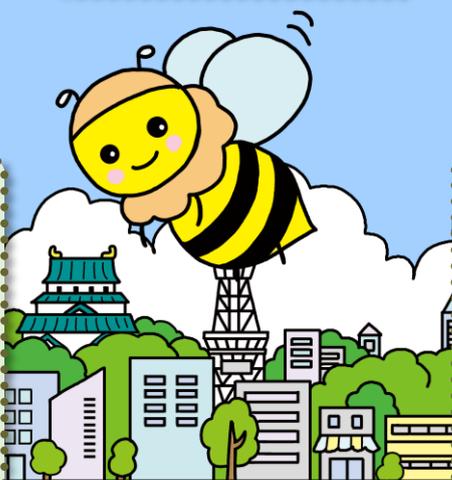
みつばちバーヤ（北区）

柳原商店街有志グループ
<https://www.facebook.com/profile.php?id=100031013306479>



笠寺ミツバチ & BeeGardenプロジェクト（南区）

笠寺商店街まちづくり活動の有志
<https://www.instagram.com/kasaderamitsubachi/>



なごや文化のみちミツバチプロジェクト（東区）

愛知商業高校ユネスコクラブ
https://instagram.com/aisho_honeygirls/



コラム 日々の買い物で、世の中の流れやしきみを変えていこう ～買い物が生物多様性を守る～

私たちが選ぶ商品の原材料の多くは生物多様性の恵みに依存しているため、私たちの消費行動は生物多様性と密接にかかわっています。最近では、日々の買い物の中で、生物多様性などの環境や社会に配慮した商品に表示される以下のようなラベルを目にする機会も増えました。

■生物多様性等に配慮したラベルの例

主に繊維製品に関する認証



GOTS認証



OCS認証

オーガニックコットンなど有機農法で栽培・飼育された原料を使い、生産から販売まで厳しい基準で管理して作られた、人にも環境にもやさしい繊維製品に表示されています。GOTS 認証では、さらに使用する化学薬品を含む環境的要件や人権などの社会的要件も満たす必要があります。

商品例 衣服やタオルなどの幅広い繊維製品



間伐材マーク

森林内に光を当て、健全な森林を保つためには、一部の木を伐採する「間伐」を行う必要があります。間伐した木である間伐材を有効利用する製品に表示されています。

商品例 飲料容器（紙コップ、カートン）、えんぴつ、ノート、プランターなど



CFPマーク

原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでに排出される温室効果ガスを二酸化炭素（CO₂）に換算して、商品やサービスに分かりやすく表示されています。

商品例 飲食品（米、菓子、ハム・ソーセージ、ジュース）、日用品（洗濯洗剤、歯磨き粉）、文具など



7:00

8:00

12:00

7:30

10:30



有機JAS認証

農薬や化学肥料などの化学物質に頼らないことを基本として、遺伝子組み換え技術を使用せず、自然界の力を活かして生産された農産物、畜産物及びそれらを加工した商品に表示されています。

商品例 野菜、肉、果物、味噌、チーズなど

主に木材や木製品に関する認証



FSC® 認証



SGEC/31-01-01



PEFC/G1-01-01

SGEC/PEFC森林認証

適切に管理された森林からの林産物や、適切だと認められたリサイクル資源から作られた製品であることを認証する制度です。このマークのついた商品の購入は世界の森林保全につながります。

商品例 ティッシュペーパー、えんぴつ、コピー用紙、ジュースなどの紙パックなど

ラベル使用に当たり、SGEC/PEFCの承認を受けています。

ラベルを参考に商品を選択することで、日々の買い物から、世の中の流れや社会のしくみを、生物多様性に配慮したものに変わっていくことができます。買い物は投票です。一人ひとりの消費行動が積み重なれば大きな力になります。

主に水産物に関する認証ラベル



MSC認証



ASC認証



MEL認証

水産資源の持続的な利用や生態系の保全などに配慮していることが、審査によって認証された漁業や養殖業による水産物に表示されています。

商品例 鮮魚、水産加工品（ちくわ、缶詰、魚肉ソーセージなど）、冷凍食品など



エコマーク

製造・使用・廃棄に伴う環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品に表示されています。

商品例 石鹸、シャンプー、ティッシュペーパー、トイレトペーパー、タオル、飲食料品・化粧品などの容器包装など



RSPO認証

熱帯林の環境とそこに生息する生物の多様性に配慮し、生産者の暮らしを守るため、生産から販売までの様々な基準をクリアして作られたパーム油を使用した商品に表示されています。

商品例 おかし、インスタントラーメン、石鹸、シャンプーなど

フェアトレードに関する認証



国際フェア
トレード
認証



フェアトレード
保証

フェアトレードは、公正な条件下で国際貿易を行うことを目指す貿易パートナーシップのことです。国際フェアトレード認証ラベルは、生産者への適正価格や生物多様性等環境に配慮した生産など国際フェアトレードラベル機構が定める基準に沿ってつくられていることを認証した商品に表示されています。また、フェアトレードを行っている保証された団体が生産・販売する製品に表示するラベルもあります。

商品例 コーヒー、チョコレート、バナナ、スパイス、コットン製品、砂糖、ハチミツ、ワインなど



レインフォレスト・
アライアンス認証

森林や生物多様性の保全、気候危機への緩和と適応や、さらに労働者の生活向上、人権尊重など、より持続可能な農業を推進するための認証制度です。認証マークは基準を満たす認証農園で作られた原料を使用した製品であることを示しています。

商品例 コーヒー、チョコレート、バナナ他果物や果汁、紅茶、緑茶、ナッツ類、ハーブ・スパイス類、切り花など